

全国調査から 浮かび上がった 幼稚園教育の実態

公私立の幼稚園長は、
調査結果をどう読み解くか？

大竹 節子
(品川区二葉すこやか園 園長)

酒井 幸子
(社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 愛育幼稚園 園長)

福井 直美
(江戸川区立船堀幼稚園 園長)

渡邊 眞一
(学校法人初音丘幼稚園 園長)

【コーディネーター】
磯部 頼子
(ベネッセ次世代育成研究所顧問)

「第1回 幼児教育・保育についての基本調査(幼稚園編)」の結果からは、国公立および私立の幼稚園が抱える、どのような課題が浮かび上がったのでしょうか。そして、より充実した教育環境の実現に向けて、現場が取り入れられる具体的な方策には何が考えられるのでしょうか。

ベネッセ次世代育成研究所の磯部頼子顧問をコーディネーターに、公立と私立のそれぞれ2名の園長が調査結果を読み解きます。なお、参加された先生方には、調査の検討委員として調査票の作成などにアドバイスをいただきました。



2歳児受け入れは 国公立と私立では大きな差

磯部 (コーディネーター)：本日はお忙しいところをお集まりいただき、ありがとうございます。「第1回 幼児教育・保育についての基本調査(幼稚園編)」(以下、「基本調査」)の結果のいくつかについて掘り下げてお話を伺いたいのですが、まずは全体を通して、感じたことやご意見をお聞かせいただきたいと思います。

大竹 (公立)：国公立と私立の違いがデータに明確に示されたことを興味深く受け止めました。これまでの幼稚園教育で見えなかったこと、そして見たかったことがはっきりしたと感じています。

磯部：両者の違いが際だっていたことの一つは、2歳児の受け入れでしょうか(p.9の図1-1参照)。国公立は設置者である自治体の意向により1%未満でしたが、私立では26.4%が受け入れていました。では、このことも含めていかがでしょうか。

福井 (公立)：近年、2歳児の受け入れに対する保護者のニーズの高まりを感じています。当園は2年保育なので、3歳児の保護者には1年間入園を待ってもらいますが、それが2歳児では2年間になります。実は2008年度の入園希望者数がガクンと減ったのですが、これは少子化の影響というよりも、「2年も待てない」という保護者の考えの表れと感じています。

磯部：保護者の多くはどのような理由で、2歳から幼稚園に通うことを希望するのでしょうか。

福井：仕事の事情よりは、「近所に友だちがいない」「家以外に親子の居場所がない」といった理由が多いようです。

大竹：私の園は幼保一体型ですから2歳児を受け入れています。保育士の指導で2歳児にも基本的な生活習慣を身に付けさせます。一方、通園していない2歳くらいの子どもを見ていると、わがま



まや、やりたい放題で保護者の方がしつけにお手上げ状態と感じさせられることがよくあります。どのように子どもに接すればよいかわからない保護者の方も多いようです。そのあたりにも2歳から幼稚園に通わせたいという保護者の意向があるのかもしれませんが。

渡邊 (私立)：こうした保護者のニーズは私立の経営上の課題と一致します。私立にとって経営基盤の確立は常に重要な課題ですが、少子化により子どもはどんどん集まらなくなっています。そこで2歳児を受け入れるわけです。今後もその傾向が強まるのは確実で、2008年度には私立幼稚園の受け入れは3割を超えるのではないのでしょうか。



教員不足の対策には ワークシェアリングも有効

酒井 (私立)：しかし、経営のために2歳児を受け入れることは、教育の質の低下が懸念されます。



渡邊 眞一先生
(私立初音丘幼稚園 園長)



磯部 頼子顧問
(ベネッセ次世代育成研究所)

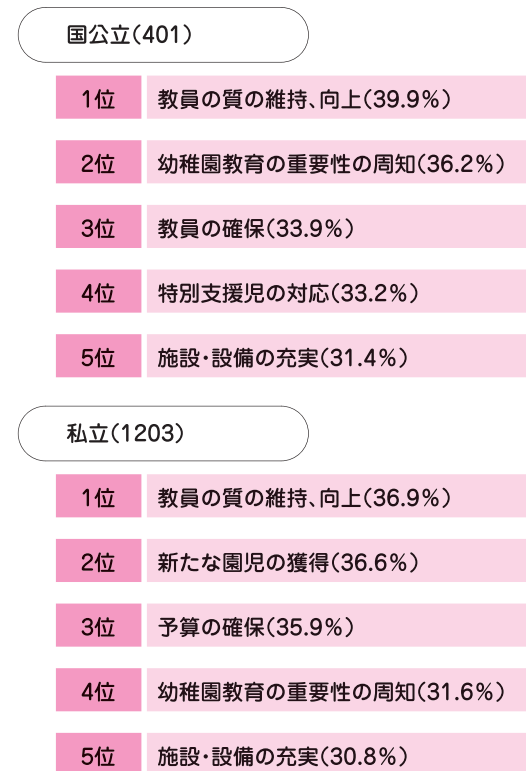
磯部：確かに、2歳児は通常の幼稚園教育のような集団教育で育てるのは無理があるでしょう。そのことについて、渡邊先生はどうでしょうか。

渡邊：そうですね。2歳児の受け入れは「入園」ではなく、あくまでも「子育て支援」の一環と位置付けられていますから、集団ではなく一人ひとりへの対応を原則とすべきです。福祉や養護の側面もありますから、保育士資格も取得している教員が担当するのが望ましいでしょう。

磯部：それはそうですね。そうはいつても今回の基本調査の結果によれば、国公立、私立ともに多くの幼稚園が「教員の質の維持、向上」「教員の確保」を課題に挙げています(表1)。教員を十分確保するのはどのような点で難しいのでしょうか。

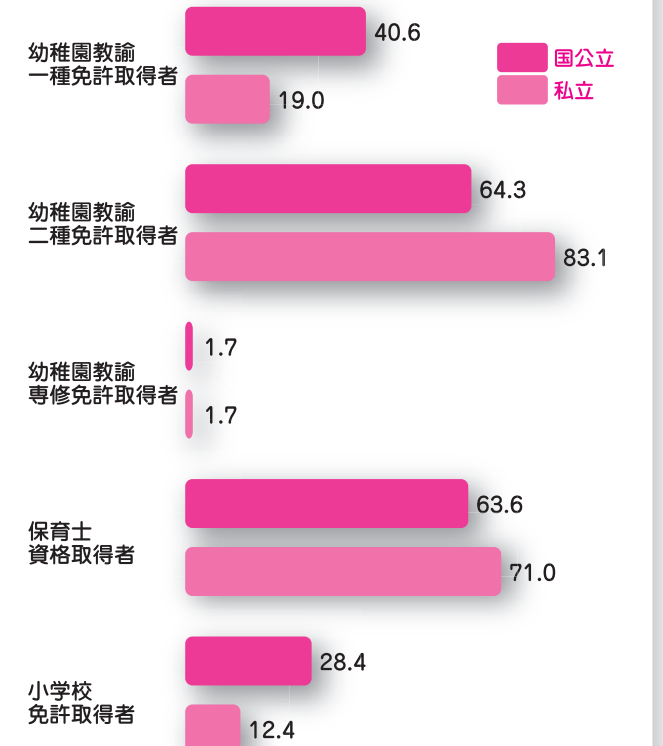
渡邊：近年、幼稚園教諭免許と保育士資格の両方取得できる養成校が増えていますが、就職では保育士に人気が集まっています。幼稚園教諭は、カリキュラムの作成やクラスへの責任などを負担に感じる人が多いようです。教員不足は都心で顕著で、近年は地方にも広がり、ますます深刻化しています。この2、3年が正念場と考え、職場改善などに早急に着手する必要があるでしょう。

表1 ● 教育上・経営上の課題



※全20項目中、上位5項目のみ。「とてもあてはまる」の%

図1 ● 教員が保有する免許の種類と割合 (%)



※各免許・資格の保有数を、教員数合計で割った各園の平均値。無答不明を除く
※複数取得している場合は、それぞれカウント

(ベネッセ次世代育成研究所「第1回 幼児教育・保育についての基本調査(幼稚園編)」より)

酒井：基本調査の結果を見ると、国公立に比べ、私立では1種免許の取得者が少ないことも気になりました。(p.15の図1) 2006年に発表された「幼児教育振興アクションプログラム」では、1種免許取得者の比率の向上が数値目標として示されています。

渡邊：1種と2種では取得時の学修年限は異なりますが、現場では同じ仕事をします。待遇をどのように変えるかという問題は、今後の議論すべき課題です。また、アメリカのように、専修免許の取得者を増やすことも念頭に置く必要があります。

大竹：若い教員を確保できたとしても、幼児教育に関する知識や保育技術が伴わないという問題は残ります。保護者に子育てについてアドバイスをするためには、10年くらいの経験は必要でしょう。

渡邊：その対策としてワークシェアリングの導入を検討する価値はあります。例えば、退職したベテラン教員に保護者相談などを任せてもよいのではないのでしょうか。各地域で人材を発掘する方法は少なくないはずですよ。



酒井 幸子先生
(私立愛育幼稚園 園長)

▼です。この安息をどう維持するかを考えるべきでしょう。

大竹：幼稚園教育要領には、教育課程内の担当教員と、預かり保育の担当教員との引き継ぎを重視し、幼児の健康な生活リズムを考慮した運用をするように書かれています。午前と午後の連続性が大事ということでしょう。いずれにしても、幼稚園の教育活動なので、適切な指導体制の整備が必要です。

福井：預かり保育ではクラスとは異なる社会生活を送りますから、規範意識が非常に大切になります。そこをしっかりと教えられる教員が担当すべきだと思います。

磯部：ところで、「預かり保育」という名称についてはどうお考えですか。

酒井：よいと思います。標準的教育時間は4時間であり、加えて幼稚園の機能を利用して「預かる」というニュアンスがすでに一般的に保護者に伝わっています。そのうえで、愛称で呼んでいるところが多いですね。



保育参加を通して保護者の成長を促す

磯部：子育て支援の一環として、保育参加や保護者参観を取り入れている園が多いこともわかりました (p.12の図4-2参照)。園側ではいろいろ工夫されているわけですが、保護者の方の意識はどうですか。

大竹：保護者の多くはインターネットや携帯電話で、子育ての情報を集めています。しかし、実際に幼稚園を訪れ、我が子だけでなく、ほかの親子と一緒に過ごす経験によって育児に興味を持つことは非常に大切でしょう。

磯部：保育参加が導入されるようになった背景には、教員の姿や子どもの人間関係を見るとともに、教員の指導の下で保育を実践することで、子どもへの接し方を学んでほしいという願いがあります。この意図は伝わっているのでしょうか。

福井：その通りだと思います。更に、保育参加や保護者参観は、保護者に教育内容を理解してもらうなど、大切な話をする場としても活用しています。そうした機会がないと、なかなか保護者は集まりません。ただし、準備には相当の時間と労力を要するのも事実です。担任を巻き込んでいくのは大変ですが、保護者は「この園に入ったら、保



大竹 節子先生
(品川区二葉すこやか園 園長)

預かり保育では「3安」を心がけて

磯部：次に預かり保育について意見をお聞かせください。基本調査では、私立の90.3%、国公立の47.9%が実施していました (図2)。

渡邊：私立でも50%を下回っていた1997年の状況を見ると、隔世の感があります。当初、文部省は国公立での導入を想定していましたが、実施してみると、主に経営的な事情から私立を元気付ける施策となりました。

大竹：私の園でも実施していますが、あくまでも教育課程外の活動ですから、子どもの心身の負担を軽減するような活動を心がけて運営しています。最近、預かり保育の傾向として、おけいこ教室のように多彩なメニューを用意し、保護者に選ばせる形式のものが増えています。そうした活動には疑問を感じざるを得ません。

渡邊：子どもは教育課程内で精一杯のエネルギーを使います。預かり保育でも同様の活動をさせれば疲れ切ってしまうのは当然です。それでは本来の預かり保育の理念に反します。私は「3安」と呼んでいますが、預かり保育には「安全」「安心」、そして意外と軽視されがちですが「安息」が重要

▼育参加が充実している。親も活動できる」などと期待して入園しますから、それに応えられるように頑張っています。

酒井：本園では保護者参観の前に保護者を集め、「こういうところを見てください」といった説明をしています。保護者が取り組みの意義を理解することによって、実施後の感想や意見も大きく変わります。保護者自身の成長も促しているのです。

磯部：保育参観を単に実施するだけでは意味がないということですね。

渡邊：保護者とのかかわりは堅苦しく考える必要はないと思います。例えば、クッキングのボランティアを募集すれば、協力してくれる保護者(保育ボランティア)は必ずいます。同じ人が続くと問題がありますから、できるだけ変えていく。そうすることで、多くの保護者に幼稚園の日常を見てもらえます。それから、母親だけでなく、父子の交流の場(パパの会)を増やすことにも目を向けるとよいと思います。

磯部：最後に、子育て支援に関して、日ごろから考えていることをお話しいただきたいと思えます。



福井 直美先生
(江戸川区立船堀幼稚園 園長)

福井：これまで、子育て支援は常に子どもを中心に考えられていました。子どもが変われば、保護者も変わると考えていたからです。しかし、最近では、保護者が変わらなければ子どもは安心して育つことができないと実感することが増えました。今後は、保護者が何を求めているのか、何を知りたいのかといったことを、より重視した活動に取り組んでいきたいと考えています。

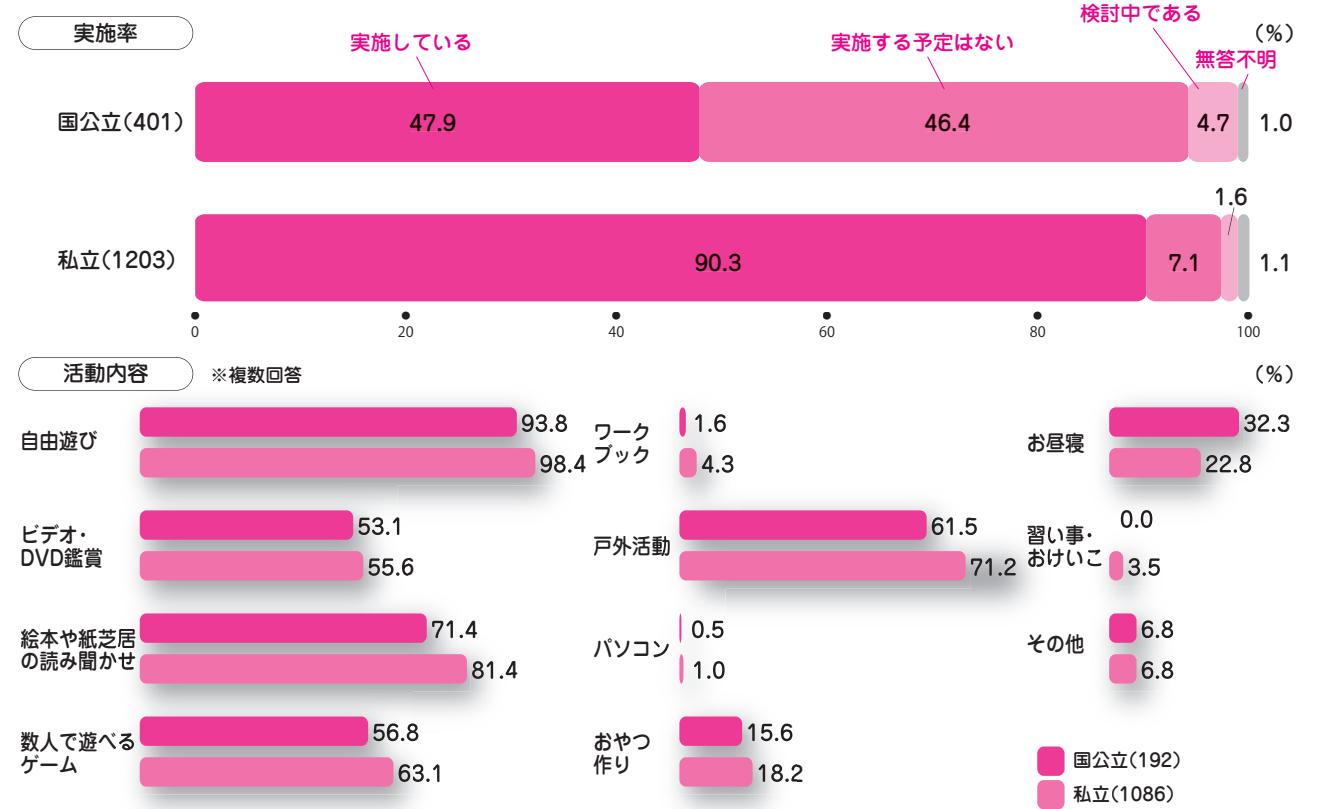
大竹：本園では人と人をつなぐ子育て支援を大事にしています。子どもが成長しても、幼稚園時代の人の輪が保たれ、保護者同士がつながれる人間関係や地域づくりを目指したいと思えます。

酒井：子育て支援の内容は、地域や園の実態により大きく変わって然るべきです。「これが正しい取り組みです」とは一概には言えません。実態に即した子育て支援を模索したいと思えます。

渡邊：子どもが育ち、そして保護者が育つ子育て支援を進めたいですね。親の助けにばかり目が向かないように、「子どもが育つ」ための「親育」を実現したいです。

磯部：今日は有意義なご意見を頂戴し、ありがとうございました。

図2 ● 預かり保育



(ベネッセ次世代育成研究所「第1回 幼児教育・保育についての基本調査(幼稚園編)」より)